

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成23年5月)

～現状・先行き判断ともに上昇～

- 景気ウォッチャー調査・5月調査の近畿地域の結果（現状判断[方向性]）は、3ヶ月ぶりの上昇、先行き判断も2ヶ月連続の上昇と、現状、先行きともに回復する形となった。今月は、全国も同様の結果となっている。
- 現状判断については、消費の自粛ムードが和らいできたほか、東北、関東の生産回復に伴うサプライチェーンの復旧で、生産も増加傾向となっていることが主な上昇要因となっている。ただし、自動車販売や観光関連など、依然として東日本大震災による落ち込みが続いている業種も多い。
- 一方、今月は梅田や阿倍野で大型商業施設がオープンし、大きな話題を呼んだが、ウォッチャーコメントにはプラス・マイナスの両方の言及がみられる。ホテルなど、直接の競合関係にない業種にはプラスの効果が出た一方、同業他社をはじめ、スーパーなどの業種では来客数の減少につながっている。
- 先行きについては、不透明感の強い状態が続いているものの、消費や生産の回復期待や、復興需要に対する期待感から、2ヶ月連続の大きな上昇となっている。ただし、復興に向けた動きについては、規模や時期などが非常に不透明であるほか、関東での電力不足による生産や消費の減少が関西に与える影響も想定する必要がある。
- また、消費に関しては、節約志向が再び強まりつつあるほか、小麦製品の値上げや電気料金の改定なども控えているなど、今後は悪化傾向が進む可能性が高いとみられる。

「梅田、阿倍野の商業施設オープン」に関する主なコメント(現状判断)
 ～プラスの影響がみられる反面、来客数の減少につながったとの声も多い～

プラス	都市型ホテル（総務担当）	・依然として海外からの観光客が戻らず、宿泊部門は低迷しているが、東日本大震災による消費の自粛も底を打ったほか、駅ビルの開業で梅田方面への来客数が大幅に増え、飲食部門の売上が大幅に伸びている。また、宴会の予約も回復傾向にある。
	コピーサービス業（従業員）	・大阪駅の大規模商業施設の開業に伴い、特に梅田周辺の店舗では来客数が増加している。また、その商業施設内の店舗からの広告作成依頼なども増えている。
マイナス	百貨店（販促担当）	・購買率や客単価は前年並みであるが、梅田地区での商業施設の増床やオープンにより、来客数が前年を下回っている。また、月下旬は雨などの天候要因で、夏物商材の売上が伸び悩んでいる。
	百貨店（営業担当）	・梅田での百貨店のオープンなどで、当店の店頭売上は大幅に減少したが、富裕層の優良顧客による買上は、高額品を中心に前年よりも増えている。
	スーパー（店長）	・4月末から5月にかけて、梅田や阿倍野で大型商業施設が相次いでオープンし、エリア間の競合が激しさを増している。特に、今年は東日本大震災の影響でゴールデンウィーク時も遠距離の旅行が控えられ、近場への外出が増えたため、新しい商業施設はいずれも多くの客を集めた。その結果、当店は来客数、客単価共に、前年比97%と悪化している。
	一般レストラン（経営者）	・東日本大震災の影響のほか、梅田と阿倍野に大型商業施設がオープンしたことで、昼間の来客数が減少している。

